

ラボからこんにちは

冬の放牧



草地畜産研究所



草地畜産研究所は、阿蘇市西湯浦にある、放牧をキーワードとした畜産の専門研究所です。

敷地内にある広大な放牧地を活用した、牛馬の繁殖や育成、肥育に関する技術確立に取り組んでいます。

主に肉用牛では褐毛和種の親子放牧や、放牧での肥育などの草地を最大限に活かした技術開発を行っています。また、農用馬の人工授精技術の向上にも努めています。

DATA

阿蘇市西湯浦1454
0967-32-1231



ライチ



ミニトマト



甘長とうがらし



びわ

天草農業研究所



ミニトマト
品種比較試験



iネルコート被覆による
不知火類水腐れ症軽減試験



P-プラス個装による
河内晩柑貯蔵試験

天草地域では、海岸島しょの温暖な海洋性気候を活かして、果樹、水稲、野菜、花き、畜産を組み合わせた農業経営が行われています。

天草農業研究所では、特有な気候を最大限に活用できる野菜・果樹の品目・品種の選定や栽培技術の試験研究に取り組んでいます。

(1) 作物園芸部門

天草地域で盛んな早期水稲を収穫した後の水田に作付けが適している野菜品目の検討、夏季の甘長トウガラシ栽

培技術の確立、また施設栽培ミニトマト等の品種選定と栽培技術の確立などの試験研究に取り組んでいます。

(2) 果樹部門

天草地域の特産品である「不知火(デコポン)」や「河内晩柑」等、中晩柑類の安定した高品質果実生産や省力的な栽培管理技術確立、出荷期延長のための貯蔵技術開発に取り組んでいます。また、天草の新しい特産品づくりを目指して、ライチの栽培技術開発に取り組んでいます。

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

農研センターは今年設立25周年を迎えました。この間に多くの技術や品種を現場に提供し、本県農業振興に寄与することができたものと考えております。

しかし、社会情勢はつねに変化し消費者ニーズも多様化する中、農研センターでは大学や企業等との連携をすすめ、新しい技術の開発に励んでおります。

また、新技術をできるだけ早く普及できるよう、新たな取り組みにも挑戦する予定です。

今後とも現場の課題解決のため努力して参りますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。



特別企画 - 蒲島知事が農研センターを訪問 -

蒲島知事は農業を経験している全国的にも珍しい知事。その蒲島知事の農研センター訪問があり、これからの農業についての講話がありましたので、紹介します。

蒲島農政の考え方

・これまでの農政

これまでの農林水産業の目標は農林水産物の価格が高くなることでしたが、今は「稼げる農業」を目指した農林水産業の振興を行っています。

・「R=Q×P-C」

「稼げる農業」とは、所得(Return)が増えることです。この所得を増やすためには、次の3つの要素の最適化が必要です。それは、コスト (Cost)の安定化、生産量 (Quantity)の増加、さらにブランド化による価格 (Price)の上昇です。この3つの要素を最適化して、「R=Q×P-C」の最大化を目指すことで「稼げる農業」が実現できるものと考えています。

・農業で品格のある美しい熊本へ

所得を増やして生産者に余裕が持てる熊本づくりを目指すため、ストー

リー性のあるコストダウン、それから価格を上げることにより農家の誇りを高める。この誇りがとても重要です。

農業はとても大事です。しかし、儲けるだけではいけません。この「稼げる農業」を実現して、生産者が余裕を持つことで、農業で熊本を美しくしよう、農業で文化を発達させよう、農業で環境を美しくしよう、農業で歴史を作ろうという行動をしていただいで、農業を中心として品格のある美しい熊本をつくりたい。これが私の願いです。このためには農業へ予算を使ってもいいと考えています。

これからの蒲島農政は、これまでやったことのない、すばらしい挑戦的なものでありつづけ、これに必要な研究や施策を実施していき、熊本県民が幸せを実感できるよう進めていきたいと考えています。



農業研究センター所長
麻生 秀則

目次

- 特別企画 P.1
農研に蒲島知事が訪問
- 稼げる農業を目指して P.2
今、試験研究中の課題はこれ
- こんなものあるよっ P.3
視察研修ならこれいかが？



〒861-1113
熊本県合志市栄3801
tel 096-248-6411
fax 096-248-7039
www.pref.kumamoto.jp/site/493
noukenkikaku@pref.kumamoto.lg.jp

本紙の内容に関するお問い合わせは、
企画調整部 情報課 まで
ご連絡ください

管理部
総務課
経理課
096-248-6412

企画調整部
企画課
情報課
096-248-6423

農産園芸研究所
作物研究室
矢部試験地
バイオ育種研究室
花き研究室
野菜研究室
096-248-6444
生産環境研究所
環境保全研究室
土壌肥料研究室
施設経営研究室
病害虫研究室
096-248-6447

畜産研究所
大家畜研究室
中小家畜研究室
生産基礎技術研究室
飼料研究室
096-248-6433
茶業研究所
096-282-6851
い業研究所
育種・栽培研究室
加工研究室
作付体系研究室
0965-52-0372

草地畜産研究所
0967-32-1231
果樹研究所
常緑果樹研究室
落葉果樹研究室
病虫害化学研究室
0964-32-1723
高原農業研究所
0967-22-1212
球磨農業研究所
0966-45-0470
天草農業研究所
0969-22-4224

ラボからこんにちは

農業研究センターは、県内各地に点在する、7つの専門研究所と3つの地域研究所の合計10の研究所から構成されています。このコーナーでは、これらの研究所をピックアップして紹介します。



木質ペレット暖房機



熊本型園芸ハウス



雨水を集めてかん水に利用



熊研B P 1号
(ニガウリ)



ヒゴムラサキ
(ナス)



ひのしずく
(イチゴ)



キャベツ

ラボからこんにちは



い業研究所



い業研究所は、八代市鏡町にある、い草に関する専門研究所です。

ここでは育種・栽培研究室、加工研究室、作付体系研究室の3つのセクションでい草と、園芸作物に関する研究を行っています。

育種・栽培研究室では、主にい草の新しい品種の開発と栽培技術の開発を行っています。加工研究室では、い草の加工技術の開発や量などが生活に与える効果などを研究しています。また、作付体系研究室では、トマトやイチゴなどの園芸作物の生産技術開発を行っています。

DATA
八代市鏡町鏡村363
tel 0965-52-0372

稼げる農業を目指して -現在取り組んでいる試験研究課題の紹介-

生産環境研究所

(農業工学部門)



内張2層化ハウス
(ハウスの内側にもう一枚)

近年の原油高騰に対応するために、施設園芸の省エネルギー技術を研究しています。また、水田での麦・大豆や、露地野菜の安定生産のための排水対策技術を研究しています。

(1) 施設園芸の省エネ対策

内張りを1層追加して2層化することで2~3割の省エネ効果が期待できますので、内張2層化を低軒高ハウスでも低コストで実施できるようハウスの改良方法や、既存の機械資材を利用した過湿防止対策技術の開発に取り組んでいます。



トマト果実の結露調査
(トマト表面温度とハウス内温湿度調査)

(2) 水田での排水対策

圃場の地表に溜まった水が滞りなく暗渠まで流れていくように水の通り道を確認し、既存の暗渠機能を十分生かした排水ができるよう、トラクターやオーガー等を利用した弾丸暗渠+縦孔掘削による排水対策技術の開発に取り組んでいます。



精密水田での縦孔による排水試験
(縦孔への靱殻の充填作業、暗渠排水量調査)

農産園芸研究所

(野菜部門)

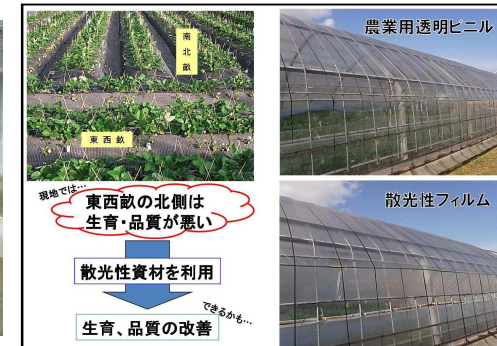


省エネ技術の開発

県農業産出額の約35%を占める野菜のさらなる生産安定のために、産地間競争に打ち勝つオリジナル品種の開発と、稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発に関する研究に取り組んでいます。

(1) オリジナル品種の開発

熊本県ではこれまで、イチゴ「ひのしずく」、熊本長ナス「ヒゴムラサキ」、ニガウリ「熊研B P 1号」等の特徴ある品種を育成してきました。今後も美味しさはもちろん、さらに作りやすく品質のよい新品种の育成に取り組んでいきます。



散光性資材利用技術の開発

(2) 革新的な生産技術の開発

イチゴ「ひのしずく」の生産性や品質向上のため、栽培技術試験を実施しています。

また、近年の燃油価格の高止まり状況の中で、栽培期間が長いために燃油を多く使う促成トマトや、ナスの省エネ対策として、高昼温低夜温管理や炭酸ガスの効果的な施用方法などの生産技術の開発に取り組んでいます。

さらに、今後の新しい被覆資材として、トマト、ナス、イチゴなどで、散光性資材の効果的な利用技術の開発を行っています。

高原農業研究所



この研究所は、阿蘇市一の宮町にある、地域対応研究所です。

阿蘇地域の高標高地独特の冷涼な気候条件を活かし、生産性が高く、特徴ある農産物づくりの実現をめざして、農産物の選定と生産技術の開発に取り組んでいます。

具体的には、主に水田作部門では水稻や麦・大豆に関する研究を、野菜部門では夏秋キャベツや夏秋トマトに関する研究を行っています。

DATA
阿蘇市一の宮町宮地
5896-2
tel 0967-22-1212

こんなものあるよっ!(1~3月) 詳しくは、各研究所にお問い合わせください

茶業研究所(御船町)

・熊本県茶振興大会(2月20日) ・茶部門試験研究成果発表会(2月下旬~3月上旬)

草地畜産研究所、高原農業研究所(阿蘇市)

・阿蘇畜産フォーラム(3月上旬) ・阿蘇地域担い手シンポジウム(2月22日)

天草農業研究所(天草市)

・天草地域農業普及振興・試験研究成果発表会(2月21日)